

一中だより 中

5月号(No.2)

令和6年5月1日(水)

〒368-0012



学校教育目標 「学び 磨き 鍛える」

目指す学校像 「時を守り 場を清め 礼を正し

笑顔 感動 高き志 のある元気な学校」

目指す生徒像 「人間として優れ 学力体力に勝る」(校訓)

秩父市滝の上町9番22号 (学校HP)

秩父市立秩父第一中学校

TEL 0494-22-1142

E-mail dailchu@chichibu-stm.ed.jp

国と県の2つの「学力・学習状況調査」



校長 井上 淳一郎

秩父の山々の緑も日増しにその色を濃くし、自然豊かな秩父を感じることができる大変よい季節となりました。4月26日にはPTA・協力会総会を開催いたしました。多くの皆様に御出席いただきました。今月は、各学年の「授業参観・保護者会」を予定しています。是非、日頃の生徒の様子を御覧いただければと思います。

さて、年度当初、埼玉県各小・中学校では「全国と埼玉県」の2つの学力・学習状況調査が行われます。実はこの2つの学力・学習状況調査、そのねらいが大きく異なります。そこで、今回はその違いを皆様に御紹介したいと思います。

まずは、4月18日(木)に実施された「**全国学力・学習状況調査**(以下、全国学調)」です。これは文部科学省(国)が実施主体で、全国の小6・中3を対象に行われるものです。そのねらいは、「〇〇は得意だが、△△は苦手としている」といった**現時点での児童生徒の学力水準や課題等を把握し、今後の学習指導の改善等に役立てること**です。具体的には、方程式は得意だが比例・反比例の説明に課題があるので、授業では長さや面積の関係を説明する学習指導に力を入れるなどです。

一方、5月14日(火)に実施される「**埼玉県学力・学習状況調査**(以下、県学調)」は、小4～中3の6学年を調査対象としています。県学調の最大の特徴は、追跡調査を行うことで**児童生徒一人一人の学力の伸びを把握し、これまでの学習指導と伸びの因果関係を検証できること**です。(県学調は、エビデンス(科学的根拠)を踏まえ、事象との因果関係を明らかにしようとする「教育経済学」の理論に基づいています。)

これまでの日本の教育調査は、結果として相関関係しか見られませんでした。例えば「成績と朝ご飯」の関係です。「朝ご飯をきちんと食べている児童生徒は平均点が高い。しっかり朝ご飯を食べましょう。」という考え方を「教育経済学」で見ると…。因果関係があれば「朝ご飯を食べれば成績があがる」ということになります。当然、朝ご飯を食べただけでは成績は上がりません(注：基本的な生活習慣の上で朝食を摂ることは極めて重要であることは言うまでもありません)。これは、相関関係であって因果関係ではないのです。また、現時点での学力水準を把握する点では、全国学調には大きな意味がありますが、これまでの効果的な取組を検証しようとすることは、教育経済学からすると不可能です。なぜなら、母集団が変わるからです。調査対象が同一ではない集団の平均点の経年比較は、まったく意味をなさないのでした。

今年度、本校では全国学調の現状分析から家庭学習の取組に課題があると分析し、その充実のために一中ノートの取組をスタートさせました。各担任から聞いたところでは、生徒は大変よく取り組んでいるとのこと。この取組の成果は来年度の県学調で検証することになります。過去の自分より大幅に「学力に勝る」ことができるよう引き続き生徒を支援してまいりたいと思います。